

小梅保育園

保育支援計画

(保育所保育指針に係る全体的な計画)



社会福祉法人 みんなのおうち

平成30年度版

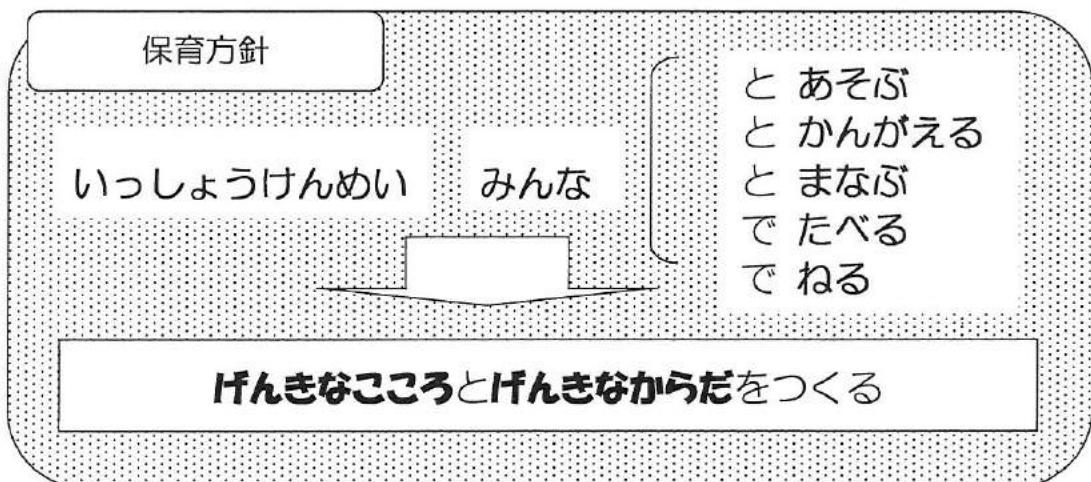
保育理念 保育をしていく上での基本的な考え方(職員にとっては心構え)

- ・子どもを愛し、あたたかい心で、子どもの心をやさしく育んでいく。(心育)
- ・子どもが穏やかに、かつ楽しい園生活を送れるように保育環境を整え(環境整備)、保護者の方との緊密な連携(保護者連携・保護者支援)のもと保育を行っていく。
- ・子どもの自主性を尊重(自主性・自発性の保障)しつつ、集団生活の中での社会性や協調性(社会性・協調性)を身につけられるように支援する。そして、これらを通じて個々の(一人ひとり)子どもの成長・発達を促していく。
- ・四季折々の自然に触れ、命の大切さを(「いのち」の尊さ)尊ぶ心を育てていく。

保育目標

- ・自分らしく過ごす中で、自分を信じ、何事にも懸命に取り組み、やり通すことの出来る子ども(自己肯定感・ひたむきさ)
- ・社会性・協調性を身につけ、受容する心(他者との関係構築)を持って全てに接することの出来る子ども
- ・命の大切さを尊び、成長していく喜びを感じることの出来る子ども

保育所の基本的な考え方は、保育所保育指針はもとより、児童憲章・子どもの権利条約等も踏まえて作成。



【主体的で共同的なまなび】～墨田区就学前児童保育キーワード～

- * 目標に向かって頑張る力（忍耐力・自己抑制・目標への情熱）
 - * 人とうまく関わる力（社交性・敬意・思いやり）
 - * 感情のコントロール力（自尊心・楽観性・自身）
- } 非認知能力

…()内は OECD 社会情緒的スキルより 2015
みんなで…多様性（ダイバーシティ） → インクルーシブ



自己肯定感を育む

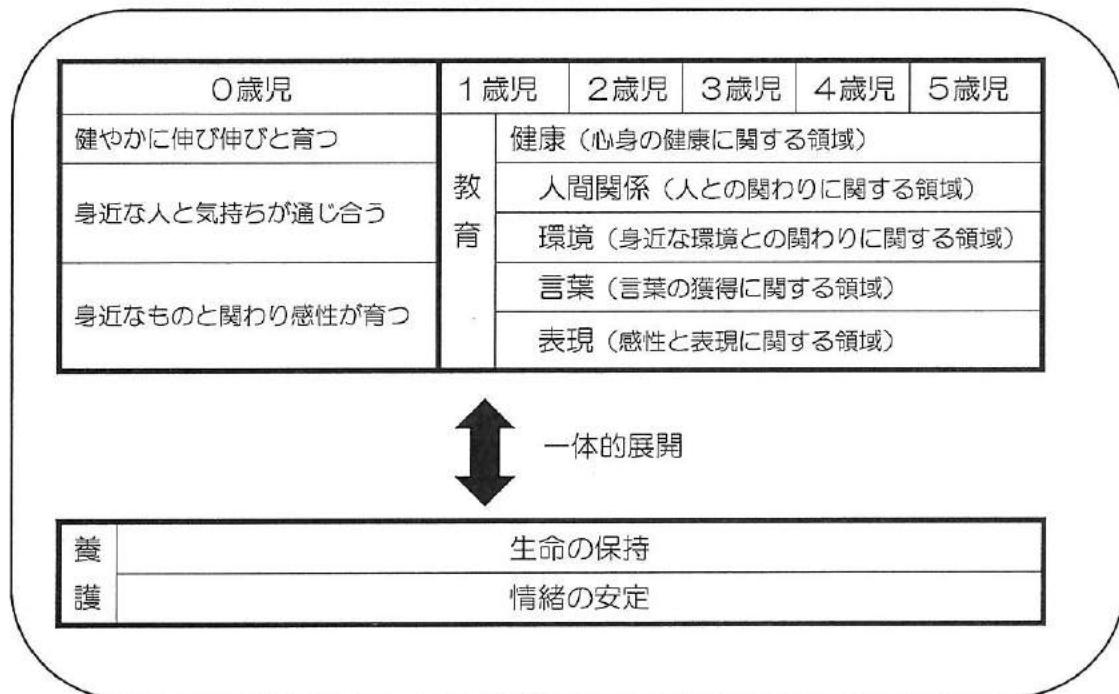
育成すべき資質・能力の3つの柱・・・園としては「生きる力の基礎」	
知識・判断力の基礎	遊びや生活の中で、豊かな体験を通じて、何を感じたり、何に気づいたり、何が分ったり、何が出来るようになるのか
思考力・判断力・表現力等の基礎	遊びや生活の中で、気付いたこと、出来るようになったことも使いながらどう考えたり、試したり、工夫したり表現したりするか
学びに向かう力・人間性等	心情・意欲・態度が育つ中で、どのように社会・世界と関わり、いかによりよい生活を営むか

具体的保育実践テーマ

自由あそび **外あそび**

子ども達自身があそびを発見し、あそびに熱中し、あそびを展開し、友達と関わりながらあそびを広げ、あそびを発展させていく。その為には、自由あそびと外あそびの保障がかかせない。…アクティブラーニングの視点

保育指針に連動した保育の展開



保育者の関わる姿勢

- ・子ども達が安心して過ごすことの出来る生活の場を提供していく。
- ・子ども達の人権を尊重し、個性を大切にしながら、のびのびと成長することが出来る環境設定を行っていく。
- ・子ども達の最も身近な大人の一人として、また、人間の基礎をつくる大事な時期に多くの時間を関わる者として、自覚・使命感・責任感を持ち、子ども達の範となるような言葉かけや動きを実践する。
- ・子ども達がやさしさや思いやりを持ち、更には基礎的生活習慣を習得し、ルールの大切さを自分自身で感じ取れるよう保育者も愛情を持って保育を行う。
- ・ものづくりのまち、「すみだ」ならではの取り組みを保育に取り入れると共に、グローバル化する時代の背景に沿って、多種多様な経験が出来る保育内容を心掛ける。
- ・職員間の連携を密にして、協力しながらチームとして保育を進めていく。
- ・子ども達の健康的な成長の為には保育者自身が健康であることを心に刻む。

クラス別保育目標

	年齢別保育目標（目指す子どもの姿）	保育者の関わる姿勢
たんぽぽ組 (0歳児)	誕生から急激に発達を遂げる子ども達の個々の成長に合わせ、保育園が安心して過ごすことの出来る場所であると思うことができ、ゆったりとした環境の中でのびのびと生活をし、成長の喜びを感じることができる子ども	生きる喜びを子ども達と共に共有し、常に子ども達がゆったりと安心して過ごすことのできる環境設定に配慮する。個々の成長に合わせそれぞれの生活のリズムを大切にしながら保育を行なう。子どもと目を合わせながら常に言葉かけを行なう。体調の変化を見逃さず、保護者の方と共に専門職として子どもの成長を見守る。
ちゅーりっ ぷ組 (1歳児)	手足の発達や言語の発達が著しく見られる中で、身近な環境に何でも興味を持ち、自分の思いを周りの大人に伝えられる子ども。自分の思いと集団生活の一員としての自制心をバランスよく共有できる子ども。	子どもの気持ちを尊重し、子ども達が興味をもって取り組むことができる活動を計画する。特に取り組みの前にはこれから行なうことを言葉にして、子ども達の理解を促しながら、丁寧な関わりの中で子ども達が自分で出来ることを増やしていく。友達同士の関係をあたたかく見守りながら必要に応じて、その架け橋となる。
あじさい組 (2歳児)	自分の思いをはっきりと伝えられ、大人だけでなく子ども同士でも言葉を介し、意思の疎通が図れる子ども。年齢に見合った生活習慣やマナーを習得し（ほぼ自立）、対人関係を構築できる子ども。	自分でやりたいという子どもの思いを大切に受け止めながら、積極的に自分自身で取り組んでいけるように工夫し、出来たときにはその喜びを子ども達自身が実感できるように喜びを共有する。人としてのマナーや生活習慣を無理なく身につけられるよう配慮する。また、物事の善悪を適切な言葉を使い、わかりやすく伝えていく。
さくら組 (3歳児)	幼児クラスの一員となり、友達同士の関わりや保育士との関わりの中で、自我と周囲との関係をよりバランスよく保つことが出来る子ども。自分の周りのあらゆる物に思いやりの心を持つことができる子ども。	園での生活や遊びを通じて、自分一人で生きているのではなく、多くの人々との関わりの中で生活していることが実感できるよう配慮する。その上にたって、社会的生活を送っていくには様々な決まりごとがあり、したいこととしなくてはならないこと、また押し通していくこと、他者に耳を傾けなければならないことを実例を通じ感じられるよう工夫する。
ふじ組 (4歳児)	基本的な生活習慣が身につき、その上で子ども同士で問題の解決を図ることが出来る子ども。物事に取り組むにあたり、その後についての予測をもって臨むことができる子ども。	子ども達が興味をもって取り組める課題を設定すると共に、展開のある保育を実践する中で、子ども達の想像力や創意工夫を促していく。基礎的生活習慣の確立を目指し、できただときには喜びを分かち合い、できなくても取り組む姿勢を評価し、励ましていく。
ひまわり組 (5歳児)	小学校への入学に向けて、規則正しい生活習慣を身につけると共に、どのような課題に対しても集中力を持って臨むことが出来る子ども。今までの経験を活かし、予想や見通しを立て、物事の解決に創意工夫をもって対処できる子ども。	子ども達の自主性を尊重し、遊び込める環境設定を行なう中で集中力を養っていく。特に集団で取り組む課題については、子ども達自身で話し合い、意見の集約が出来るよう、保育の中で子ども達に寄り添っていく。たくさんの経験をする中で、子ども自身が自信を持って就学を迎えることができるよう配慮する。

保育のねらい・内容（0歳児）

養 護	生命の保持	<ul style="list-style-type: none"> * 生活リズムの形成 * 保健的で安全な環境をつくり、快適に生活出来るようにする。 * 一人ひとりの子どもの生活リズムを大切にしながら、生理的欲求を満たし、生命の保持と生活の安定を図る。 * 年齢にあった適度な運動と休息をとれるようにする。
	情緒の安定	<ul style="list-style-type: none"> * 保育者が子どもにとって安心できる存在であることが認識できるような配慮 * 一人ひとりの子どもに応じて心身共に快適な状態をつくり、保育者との絆を確立していく中で情緒の安定を図る。 * 子ども自身が愛されていることを実感出来るような関わり方への心掛け。
健やかに伸び伸び と育つ		<ul style="list-style-type: none"> * 身の回りの世話を喜んでしてもらう。また、自分からもしようとする気持を表す。 * 手足や体を動かす、姿勢を変える、移動するといった様々な運動的活動を十分に行なう。
身近な人と気持ちが 通じ合う		<ul style="list-style-type: none"> * 一人ひとりの子どもが生活の中で、保育者との応答的な関わりを通して、情緒的な絆を構築し、深めていく。
身近なものと関わり 感性が育つ		<ul style="list-style-type: none"> * 感覚の働きを豊かにしていく、その働きにより、人や物に関わろうとする。 * 聞く・見る・触る等の経験を通して、好奇心が芽生える。

保育のねらい・内容（1歳児）

養 護	生命の保持	<ul style="list-style-type: none"> * 他児との関係を築いていく中での安全の確保 * 食事・排泄・睡眠・着脱・身の回りの清潔への適切な援助 * 保健的で安全な環境をつくり、快適に生活出来るようにする。 * 一人ひとりの子どもの生活リズムを大切にしながら、生理的欲求を満たし、生命の保持と生活の安定を図る。 * 年齢にあった適度な運動と休息をとれるようにする。
	情緒の安定	<ul style="list-style-type: none"> * 人と物との関わりについての理解を深めていく為の援助 * 一人ひとりの子どもに応じて心身共に快適な状態をつくり保育者との絆を確立していく中で情緒の安定を図る。 * 子ども自身が愛されていることを実感出来るような関わり方への心掛け。
教 育	健康	<ul style="list-style-type: none"> * 歩行の確立や手指の発達（体を動かす事を楽しむ） * 食事や排泄の世話をしてもらう中で、自分でしようとする気持が芽生える。
	人間関係	<ul style="list-style-type: none"> * 保育者と一人ひとりのつながりの中で、安定して生活する。 * 遊びを通して、子どもと相互の関わり合いをもつ。 * 身近な大人や友達に关心を持つ。
	環境	<ul style="list-style-type: none"> * 身の回りのものに关心を持ち、さわったり、いじったりして遊ぶ * 動植物に興味を持つ。 * 色や形に興味を持つ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> * 言葉を使うことを楽しむ。 * 生活の中で保育者に話しかけられたり、話したりすることを楽しむ。 * 絵本への興味や好奇心が増大する。
	表現	<ul style="list-style-type: none"> * 言葉を使って意思を伝えようとする。 * 身の回りのものを使った遊びの中でイメージを膨らませる。 * 様々な素材に興味を持つ。

保育のねらい・内容（2歳児）

養 護	生命の保持	<ul style="list-style-type: none"> * 食事・排泄・睡眠・着脱・身の回りの清潔への適切な援助 * 自我の育ちへの把握と対応 * 保健的で安全な環境をつくり、快適に生活出来るようにする。 * 一人ひとりの子どもの生活リズムを大切にしながら、生理的欲求を満たし、生命の保持と生活の安定を図る。 * 年齢にあつた適度な運動と休息をとれるようにする。
	情緒の安定	<ul style="list-style-type: none"> * 自己主張への配慮 * 一人ひとりの子どもに応じて心身共に快適な状態をつくり、保育者との絆を確立していく中で情緒の安定を図る。 * 子ども自身が愛されていることを実感出来るような関わり方への心掛け。
教 育	健康	<ul style="list-style-type: none"> * 基本的な機能の充実に伴い、遊びの幅が広がる。 * 食事や着脱など簡単な身の周りの活動に取り組む。
	人間関係	<ul style="list-style-type: none"> * 友達と一緒に遊ぶ楽しさを実感する。 * 徐々に幼児クラスの友達と関わりを持つ。
	環境	<ul style="list-style-type: none"> * 自分のまわりで起こる様々な事象に関心を持ち、積極的に関わろうとする。 * 動植物への興味、色や形への興味を更に深める。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> * 日常生活に必要な言葉を大よそ理解し、使用する。 * 絵本への興味から、自ら絵本を使って内容を理解しようとす
	表現	<ul style="list-style-type: none"> * 身の回りの様々なものを模倣する。 * 興味のあることや体験した事を遊びの中で表現する。 * 季節感を表現する。

保育のねらい・内容（3歳児）

養 護	生命の保持	<ul style="list-style-type: none"> * 幼児クラスの中での安定した生活環境の提供 * 保健的で安全な環境をつくり、快適に生活出来るようにする。 * 集団生活の中で、一人ひとりの生理的欲求を満たし、生命の保持と生活の安定を図る。 * 年齢にあった適度な運動と休息をとれるようにする。
	情緒の安定	<ul style="list-style-type: none"> * 自我を大切にした主体性を育成する中で自己肯定感を感じる事が出来るような働きかけ。 * 集団生活とのバランスをはかりながら、一人ひとりの子どもに応じて快適な状態をつくり、心身の疲れを癒していく、保育者との絆を確立していく中で情緒の安定を図る。
教 育	健康	<ul style="list-style-type: none"> * 自分で出来る事に喜びを持ちながら、生活に必要な基本的生活習慣を身につける。 * 戸外遊びを十分に行ったり、集団での遊びを通じて、体を動かすことを楽しむ。 * 自分の体調の変化に自ら気づき訴える。
	人間関係	<ul style="list-style-type: none"> * 友達と協調しながら遊ぶ事を楽しむ。 * 異年齢児クラスでの年上の友達のしている事に興味を持ち、関わりを楽しむ。 * 道徳心の芽生え
	環境	<ul style="list-style-type: none"> * 自然や動植物と関わる中でそれらと親しんだり、使ったりしながら十分に遊ぶ。 * 色や形の他、文字や数についても感心を示すようになる。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> * 言葉を使ってのやりとりがスムーズに行なえることで、喜びを感じるようになる。 * 絵本などの内容を理解した上で、楽しむ。 * 文字や数字、記号、標識に興味を持つ。
	表現	<ul style="list-style-type: none"> * 様々なを見たり、聞いたり、触れたりする中で、おかしさ、おもしろさ、美しさ、不思議さに気づく。 * 感じたことや体験した事を歌や動きを通じて表現する。

保育のねらい・内容（4歳児）

養 護	生命の保持	<ul style="list-style-type: none"> * 基本的生活習慣の確立 * 保健的で安全な環境をつくり、快適に生活出来るようにする。 * 集団生活の中で、一人ひとりの子どもの生理的欲求を満たし、生命の保持と生活の安定を図る。 * 年齢にあった適度な運動と休息をとれるようにする。
	情緒の安定	<ul style="list-style-type: none"> * 主体性と協調性の安定的共存の中での自己肯定感の醸成 * 一人ひとりの子どもに応じて快適な状態をつくり、心身の疲労を癒していく、保育者との絆を確立していく中で情緒の安定を図る。
教 育	健康	<ul style="list-style-type: none"> * 自分で出来る事の範囲を広げながら、生活に必要な基本的な習慣や態度を身につける。 * 危険について気づき、それを避けることが出来る様になる。 * 身近な道具を使ったり、集団的な遊びを通して体を動かすこと楽しむ。
	人間関係	<ul style="list-style-type: none"> * 集団生活の中で、主体性を持って行動すると共に、自らを抑制する心ももち、友達や保育士との関係の中で、そのバランスをはかるようになる。
	環境	<ul style="list-style-type: none"> * 身近な自然や動植物への興味を深める中で、親しみや愛情を感じるようになる。 * 社会の事象に興味をもち、それらを遊びに取り入れるようになる。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> * 自分の体験したことや思ったことを言葉にして伝えられるようになる。 * 言葉をつかった遊びを楽しむ。 * 多くの語彙や言い回しを身につける。
	表現	<ul style="list-style-type: none"> * 身近なものや社会事象への興味の深まりに伴い、それらを模倣したり、感じたことを表現する楽しみを覚える。 * 様々な道具をつかって豊かに表現をする。

保育のねらい・内容（5歳児）

養 護	生命の保持	<ul style="list-style-type: none"> * 小学校に向けての生活習慣の習得 * 保健的で安全な環境をつくり、快適に生活出来るようにする。 * 集団生活の中で、一人ひとりの子どもの生理的欲求を満たし、生命の保持と生活の安定を図る。 * 年齢にあった適度な運動と休息をとれるようにする。
	情緒の安定	<ul style="list-style-type: none"> * 主体性と協調性の安定的調和と自己肯定感の増進 * 一人ひとりの子どもに応じて快適な状態をつくり、心身の疲れを癒していく、保育者との絆を確立していく中で情緒の安定を図る。
教 育	健康	<ul style="list-style-type: none"> * 様々な道具を使用し、複雑な運動や集団的な遊びを通して体を動かす事を楽しむ。 * 健康の維持や安全の確保に必要な習慣や態度を身につける。
	人間関係	<ul style="list-style-type: none"> * 更に積極的に集団での活動に参加する中で、目的の達成に向け、リーダーシップをとるようになる。 * 他者を尊重したり、役割分担を自ら行なえるようになる。 * 仲間の一人としての自覚を持てるようになる。
	環境	<ul style="list-style-type: none"> * 自分達の回りのものと自分との関係性を理解し、それらを遊びに取り入れる中で多くの経験をする。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> * 自分の考え方や、体験を整理して伝えることが出来ると共に、話を聞くことの楽しさも感じる。 * 絵本など言葉からイメージが広がるようになる。
	表現	<ul style="list-style-type: none"> * 様々な知識や経験を活かし、創意工夫を重ね、多くの手段で表現する。

幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿

- (1) 健康な心と体
- (2) 自立心
- (3) 協同性
- (4) 道徳性・規範意識の芽生え
- (5) 社会生活との関わり
- (6) 思考力の芽生え
- (7) 自然との関わり・生命尊重
- (8) 数量・図形、文字等への関心・感覚
- (9) 言葉による伝え合い
- (10) 豊かな感性と表現



「保育の道標」同様に到達目標ではなく、方向目標として捉える

小梅保育園における就学に向けての取り組み

- *自由あそび・外あそびの充実に向けた環境整備
- *ひまわり組のお楽しみの時間
- *園内体操教室
- *小学校連携
- *他の保育園、児童館等との連携
- *中学校との交流
- *高齢者との交流
- *地域との交流
- *博物館等の園外保育

就学に向け、主体的・対話的で深い学びに繋げていく

目指す子どもの将来像 ~墨田区教育施策大綱~より

- (1) 将来、社会で活躍し、地域に貢献できる人
- (2) 郷土に誇りをもち、異文化とも敬意をもって積極的に交流できる国際感覚のある人

ひまわり組のお楽しみの時間（例示）

小学校就学に向けて、子ども達の興味を刺激し、物事に前向きに取り組んでいくことを目的としたプログラム（以下は例示…その年により子ども達の特性を見ながら内容は変わる。）

	特別活動		模写
	活動内容	ねらい	
4月	鉛筆と消しゴムの使い方	小学校を意識しての時間であるとの導入を行う。	春のブーケ (ルノアール)
5月	鉛筆のワーク	前回の活動を活かして、鉛筆の使い方に慣れていく。	グランド・ジャット島 の日曜日の午後 (スーラ)
6月	お話の記憶	言葉を聞き、情景をイメージした上で、表現する。	記憶の固執 (ダリ)
7月	お泊り保育って??	お泊り保育に期待を持つ。 友達と協力して活動を行う。	サルのいる熱帯の森 (ルソー)
8月	色水実験	自分で混ぜることで、色の変化を楽しむ。又、記録を取ってみる。	ひまわり (ゴッホ)
9月	どんな風に聞こえる??	“歌詞”ではなく、“曲”にスポットを当て、イメージを広げる。	解体されるために最後の航海に向かう戦艦テメレール号
10月	どんな国があるのかな?	世界には色々な国があることを知るきっかけを作る。(運動会の万国旗を導入にして)	大きな赤い室内 (マティス)
11月	私たちの住んでいる国	世界を知ったうえで、自分たちの国について、考える。	落穂拾い (ミレー)
12月	ワーク	一定時間座り、集中して取り組む。	モナリザ (ダヴィンチ)
1月	言葉遊び	言葉に視点を当て、言葉の面白さを感じる。	凱風快晴 (葛飾北斎)
2月	危険を探そう	身の回りの危険を探し、友だちと話し合いながら、自分の身を守る意識を持つ。	ゲルニカ (ピカソ)
3月	保育園の思い出	一年間を振り返る機会を設け、楽しかった思い出を持って卒園する。	真珠の耳飾りの少女 (フェルメール)

小梅保育園の食育

小梅保育園食育計画の基本的な考え方

小梅保育園の食育の計画は、保育所保育指針に示された考え方を踏まえ、その上で、園の基本的な考え方（保育理念、保育目標等）をベースとした保育の一環として捉えている。よって小梅保育園食育計画は、以下に示す園の基本的な考え方を基として、保育の計画の中から「食」に焦点を当て、子ども達の育ちの継続性・連続性を加味したものとしている。

小梅保育園の基本的な考え方

【保育理念より】四季折々の自然に触れ、命の大切さを尊ぶ心を育てていく。

【小梅保育園 保育目標より】

げんきなこころとげんきなからだをつくる

- 命の大切さを尊び、成長していく喜びを感じることの出来る子ども

小梅保育園における食育の目標

- みんなで食べることを楽しむ子ども
- 様々なものを食べ、元気な体を作ろうとする子ども
- 食に関わるひと・もの・ことを大切にする子ども

クラス別食育目標

	目標	配慮事項
たんぽぽ (0歳児)	*お腹がすきミルクを飲み、離乳食を食べ、心地よい生活を味わう子ども *食べる喜びを感じ、食べたいという意欲を持つ子ども	*授乳や食事中に愛情ある継続的で応答的な関わりを持ち、子どもが人間への信頼や愛情を持てるよう配慮する。 *一人ひとりの成長・発達状態・生活のリズムに留意しながら、食品の種類・大きさ・固さ等を配慮する。 *様々な食べ物に接する機会を持ち、食欲を育むようにする。
ちゅーりっぷ (1歳児)	*お腹がすくリズムを持てる子ども *自分で食べたいという意欲を持つ子ども *食事に集中し、よく噛んで食べる子ども	*生活リズムが整うよう、活動や食事時間の組立てに配慮する。 *様々な食べ物に興味を持つと同時に、これらを食べることによる満足感を得て、自ら進んで食べようとする姿勢を育てていく。 *一緒に歯むまねを見せるなど、咀嚼の大切さを伝える。
あじさい (2歳児)	*保育士や友達と食べることを楽しむ子ども *基本的な食習慣や態度に关心を持つ子ども *様々な料理や食材を意欲的に食べる子ども	*食前食後のあいさつや、きれいに食べることなどが一緒に食べる人の楽しい食事に繋がることを伝える。 *食事と共に食事時間の中での会話を楽しみ、落ち着いた和やかな雰囲気づくりに配慮する。 *栽培や野菜に触れる活動を通して、食べ物に关心を持つようにする。
さくら (3歳児)	*食事のマナーを知り、保育士や友達と食べることを楽しむ子ども *自分でよりよく食べようとする子ども *食べ物や調理に关心を持つ子ども	*食事のマナーや食具の使い方等、わかりやすく伝えると共に、保育士や子ども同士が手本となるようにする。 *友達との食事を和やかに進められるような環境にする。 *栽培を通して、食べ物に关心が持てるようにする。 *栄養士との関わりを通して、調理や食材の変化に关心が持てるようにする。
ふじ (4歳児)	*食事のマナーを身につけ、身近な人と楽しく食べる子ども *すべての命を大切にする心を持つ子ども *食べ物と健康の関わりに关心を持つ子ども	*食事のマナーを守ることの大切さを伝え、それが楽しい食事に繋がることに自ら気づくような食事時間にする。 *栽培や絵本等を活用し、命の大切さや食事に対し感謝することを伝えていく。 *栄養バランス表や栄養士との関わりを通して、食事が健康の維持や発育に役立っていることに気づくようにする。
ひまわり (5歳児)	*みんなで楽しく食べるための食事環境を考え、共に作り上げようとする子ども *食事に関わる人に感謝する子ども *食べ物と健康の関わりに关心を持つ子ども *バランスの良い食事をしようとする子ども	*食事にふさわしい環境を伝え、子ども同士が主体性を持って環境づくりをしていくよう配慮する。 *栽培や買い物、調理などを通して、多くの人が関わっていることに自ら気づくよう保育を行う。 *栄養バランスの観点から苦手なものでも、食べる必要があることを認識できるよう伝える。

給食計画

通年の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> *旬の食材を多く取り入れた季節感のある、和食を中心とした献立にする。 *食材そのものの味や食感、彩りを活かす。 *誕生児のリクエストを取り入れ、“食べたいもの”がある献立にする。 *郷土料理・世界料理を取り入れ、様々な食文化を経験できるようにする。 *適温給食の提供（温かいものは温かく、冷たいものは冷たく）。 				
	行事食等 (誕生会は毎月)	献立作成上の留意点		行事食等 (誕生会は毎月)	献立作成上の留意点
4月	入園・進級おめでとう会	食べ易く人気のあるもの	10月	運動会がんばろうメニュー 魚の食育	体を温めるもの 免疫力を高めるもの
5月	端午の節句		11月	お店屋さんごっこ	風邪予防
6月	歯を大切にしようね会	咀嚼を促すもの カルシウム強化	12月	冬至 クリスマス会	
7月	七夕	夏バテ防止 さっぱりと食べやすいもの	1月	お正月料理 七草粥 鏡開き	
8月	キッズコンサート		2月	節分	
9月	防災メニュー 十五夜		3月	ひなまつり 防災メニュー 卒園児リクエスト	人気のあるもの

※ 毎日の喫食状況を確認（喫食状況表）し、献立作成における基礎資料とする。

保護者との連携

24時間を通じての子どもの成長を育んでいくという観点から、子どもの食についての意識の共有を図っていく。

具体的な取り組み

*食育だよりの発行（毎月）

*保育参加での給食体験

*離乳食の進み方に対するきめ細やかな連携

*アレルギー対応食に対する配慮

小梅保育園の保健

小梅保育園保健計画の基本的な考え方

小梅保育園の保健計画は、保育所保育指針に示された考え方を踏まえた上で、園の基本的な考え方（保育理念、保育目標等）をベースとしている。つまり、小梅保育園保健計画は、保育の計画の中から「児童の心身の健康」に焦点を当て、作成するものである。

小梅保育園 保育目標 けんきなこころとけんきなからだをつくる

月別の保健計画

	健康管理の内容	保健の内容		
4月	看護師・新担任による児童の健康状態の把握 与薬について職員・保護者共に方法の確認を行う。	新入職員 上級救命講習	○歳児健診 児童身体測定 職員保菌検査	保健だより発行
5月	十分に戸外遊びを楽しむ中で健康の増進を図る。 衛生についての知識の習得と清潔維持の励行	心理相談員巡回 害虫駆除 布団乾燥	全園児健診 児童身体測定 職員保菌検査	保健だより発行
6月	温度・湿度管理の徹底・梅雨時期の衛生管理の徹底 歯の健康についての指導	歯科健診 ぎょう虫検査	○歳児健診 児童身体測定 職員保菌検査	保健だより発行
7月	プール開始に伴う健康状態の把握 日よけの準備・虫さされへの対応	布団乾燥	○歳児健診 児童身体測定 職員保菌検査	保健だより発行
8月	暑さに対する配慮・夏かぜに対する注意喚起 夏休み明けの児童の健康状態の把握		○歳児健診 児童身体測定 職員保菌検査	保健だより発行
9月	救急用品の内容確認 緊急時の対処方法の確認	布団乾燥	○歳児健診 児童身体測定 職員保菌検査	保健だより発行
10月	積極的に戸外遊びを行ない、体力の増進を図る。 運動会を通じて、児童の成長・健康について保護者と共に共有する。	心理相談員巡回	○歳児健診 児童身体測定 職員保菌検査	保健だより発行
11月	暖房器具・加湿器の準備 うがいについての積極的指導	布団乾燥	全園児健診 児童身体測定 職員保菌検査	保健だより発行
12月	大掃除を行う中で、保育室内の安全確認を行う。 予防接種の状況の確認を行う。	大掃除 ぎょう虫検査	○歳児健診 児童身体測定 職員保菌検査	保健だより発行
1月	正月休み明けの児童の体調の確認 室内外の気温差に留意し、衣類の調節を行う。	布団乾燥	○歳児健診 児童身体測定 職員保菌検査	保健だより発行
2月	寒い中でも積極的に戸外遊びを実施する。 健康管理書面の整理を行なう。	心理相談員巡回	○歳児健診 児童身体測定 職員保菌検査	保健だより発行
3月	次年度に向けて計画の中に年齢別の保健計画を盛り込む。	入園時健康診断 布団乾燥	○歳児健診 児童身体測定 職員保菌検査	保健だより発行

保護者との連携

24時間を通じての子どもの成長を育んでいくという観点から、子どもの健康についての意識の共有を図っていく。

【具体的な取り組み】

- * ほけんだよりの発行（年6回）
- * アレルギー対応食に対する配慮
- * 予防接種についての記録の共有
- * 乳幼児健診の周知
- * 離乳食の進み方に対するきめ細やかな連携

安全・衛生

安全・衛生管理 ①安全対策・衛生対策

【安全管理】

*睡眠チェックの徹底…0歳児 5分おき
1・2歳児 10分おき
3～5歳児 30分おき を原則

入眠後は、部屋を明るくし、確認しやすい環境を作る。

*ベビーセンサー等の積極的導入を図る。

***プール**

リーダーと監視役の役割分担を徹底し、不測の事態に備える。
マニュアルを整備

***食事中**

アレルギー児の喫食内容の事前確認
はし・フォーク等の使い方の監視

***その他**

製作時にハサミ等を使う時
食育で火器や包丁を使用する時
歯磨きの時 等 常にリスクがあることを踏まえて指導

【点検】

自主点検	専門事業者による点検
*開園時・閉園時点検	*建物定期点検
*月次点検（月2回）	*エレベーター点検
*建物自主点検（年2回）	*防災設備点検（年2回）

【検査】

全保育従事職員の保菌検査（毎月）

調理担当職員のノロウイルス検査（年3回）

【記録】

事故簿・けがノート・ヒヤリハット報告書等、事故等についての記録を細かく行い、記録すると共に、回覧することで園内全体で共有する。

【リスク会議】

原則、毎月リスク会議を開催し、前月に起こった事故等の検証と、改善策について話し合う。合わせて、次回の会議での報告、実践内容を協議する。

【訓練】

AED訓練やノロ対応嘔吐時の吐しゃ物処理訓練等の実践的な訓練を定期的に実施する。

安全・衛生管理 ②防災対策

【避難・消火訓練】

別紙の避難訓練実施計画に沿って、毎月1回以上の避難訓練を行う。

また、定期的に引取り訓練なども取り入れる。

【消火訓練】

毎月1回職員による消火訓練を実施する。

うち、年2回は水消火器を消防署より借り受け、実施する。

【避難用具】

乳児には、専用ヘルメット又は防災ずきんを用意、幼児には幼児用ヘルメットを定員分用意し、避難時に備える。じ

乳児用避難車を2台（大・中）用意し、避難に備える。

【防災協定】

保育所の立地する自治会である「小梅二丁目町会」と防災協定を締結し、災害時には協力を依頼すると共に、町会と同行避難することを取り決める。

【防災備蓄品】

児童・職員の3日分の食料の他、カセットコンロ、使い捨て哺乳瓶、風よけシート、等を備蓄。定期的に期限などの点検を行う。

備蓄品の他、緊急避難用として避難リュックを常備する。

平素より、備蓄品（アルファ化米等）の炊き出し訓練を行う

【情報収集】

地域の防災対策等について積極的に条坊収集を行い、園の防災計画の一助とする。

【不審者訓練】

不審者から園児を守る為、年に2回不審者訓練を実施する。

（1回目は園に不審者が侵入した場合、2回目は散歩時に不審者と遭遇した場合を想定）

【防火・防災会議】

原則月に1回防災会議を開催、防災面における課題の抽出と共有を行う。

保護者支援（在園児の保護者）

目的：保育所と保護者との緊密な連携が児童の健全な成長・発達には不可欠なことから、日頃より緊密な連携を心掛けると共に必要に応じ、保育所としての専門性を活かし、保護者を支援していく。

【主な取り組み】

共通目標	保護者と保育所でそれぞれの児童に個別の目標をたて、年に3回振り返りを行い、表通理解に努める。
個人面談	年に1度個人面談を行い保護者との理解を深める。（必要な場合は複数開催）
保護者懇談会	年に数回保護者懇談会を実施、園・各クラスでの取り組みを説明する
おたよりの発行	毎月園だより・クラスだより・食育だより・保健だよりを発行。
お茶会	保護者同士の交流の場として、お茶会を実施。（おしゃべりルーム・架け橋）
保育参加	通常の保育を見学すると共に保育園給食を試食する機会を提供する。
行事参加	誕生会への招待、親子遠足、運動会、発表会等
キッズリー	キッズリーによる写真の配信
専門機関との連携	要保護等については子育て支援総合センターと緊密に連携

保護者支援（地域の保護者）

地域における子育て支援機能を持った専門施設として、可能な限り、在宅子育て支援を行う。

【子育て安心ステーション事業】

- *子育て相談（成長・発達、離乳食・幼児食、保健 等）
- *給食見学・献立配布
- *身長体重測定

【その他事業】

- *公開型行事への参加（キッズコンサート・食育）
- *地域事業への職員派遣

【その他】

- *区・保健センター（療育機関）・子育て支援総合センター・町会等、関係機関との連携

職員の資質向上

【研修】…様々な方法で研修の機会を確保する。

*毎年個人別目標シートを作成。それを踏まえ個人別研修計画を作成。

(1) 園内研修・勉強会

職員会議を討論型とし、多角的な視点からの保育感を共有
園内における保育実習の開催
主任を中心に実務に即した勉強会を開催

(2) 園外研修

園外研修の積極的受講を奨励
受講後は、研修報告書を作成し、職員間で共有

施設長の責務

施設全体の責任者として、園の基本的な考え方を、職員に説くと共に、職員のスキルアップに向け、研修等を奨励する。また、施設の代表者として園内のみならず、地域の福祉関係者として、積極的に地域の諸事業に参画する。

評 価

第三者評価	原則、毎年度受審
保育所としての自己評価	年に3回、園長・主任で保育所としての自己評価を実施
アンケート	各行事事に参加保護者にアンケートを依頼

毎月のねらいと主要年間行事予定表

毎月のねらい		行事	健康・安全・衛生	保護者の方との連携
4月	春の自然に触れて遊ぶ。 新しい環境に慣れ、安心して過ごす。	入園・進級おめでとう会 お花見散歩	健診(〇) 避難・消火訓練	新年度説明会・クラス別懇談会
5月	身近な小動物や自然と触れ合う。 好きな遊びを見つけて楽しむ。	端午の節句 泥んこ遊び開始 香遠足(荒川土手) 3~5歳児	健診(全)、避難・消火訓練 消防点検、布団乾燥	個人別懇談会 保育参加
6月	身の周りの様々な自然を見つけて遊び。 砂・土・水の感触を十分に味わう。	誕生会 歯を大切にしよう会	健診(〇)、避難・消火訓練 歯科健診、害虫駆除	保育参加
7月	夏の自然に触れたり、盛夏ならではの遊びを楽しむ。 身近な植物の生長から命の大切さを知る。	七夕・お泊り保育 プール遊び開始	健診(〇)・避難・消火訓練 布団乾燥	初めてノバママ 先輩ノバママ交流会 保育参加
8月		クラシックコンサート	健診(〇)・避難・消火訓練	保育参加
9月	秋の気配を感じ、戸外で十分に体を動かす。 高齢者の方と触れ合い、親しみを持つ。	水遊び納め ハ広プール(5歳児) おじいちゃん・おばあちゃん会	健診(〇) 避難・消火訓練、布団乾燥	架け橋お茶会 保育参加
10月	友だちと体を動かす喜びを感じる。 季節の移り変わりに気づく。	運動会 秋遠足(1・2歳児 近隣公園) 交通安全教室 秋遠足(3~5歳児 荒川土手) 小梅小学校交流	健診(〇) 避難・消火訓練	運動会
11月	秋の自然に親しみ、自然物を取り入れた遊びを楽しむ。 新年を迎える期待や喜びを持つ。	お店屋さんごっこ	健診(〇)、避難・消火訓練 消防点検、害虫駆除、布団乾燥	親子遠足 保育参加
12月	様々な表現活動を友だちと一緒に楽しむ。 冬の自然に触れ、墨さに負けず元気に運動する。	クリスマス会 ワクレレコンサート	健診(全) 避難・消火訓練	保育参加
1月	お正月遊びを楽しんだり、日本の伝統的な風習を知る。 冬の自然に遊びに積極的に取り組む。	正月遊び大会	健診(〇)、避難・消火訓練 布団乾燥、歯科検診	クラス別懇談会 保育参加
2月	冬の自然に進んで闘わり、豊かな感性を育む。	節分 発表会	健診(〇) 避難・消火訓練	発表会 保育参加
3月	自然の変化を目にし、春の訪れを感じる。 進級・進学への期待を持ち、落ち着いて過ごす。	ひな祭り・お別れ遠足(上野動物園) 遠足(0~4歳児)・卒園式 卒園見送り会	健診(〇) 避難・消火訓練、布団乾燥	

小梅保育園 避難訓練・消火訓練・不審者訓練 実施計画

月	想定	時刻	避難場所	内容		消火訓練
				ねらい	内容	
4	火災 (調理室)	9:50	室内から 各階避難口へ	・保育士の指示に従い、落ち着いて 安全に避難する ・避難時の約束事を知る	・新しい体制・環境での避難方法を確立する ・「お・か・し・も」の約束を伝える	栄養士～調理室へ向け、消火器にて模擬消火 保育士～保育室にて壁を火元と想定し、消火器にて模擬消火
5	地震(関東全域)→ 荒川氾濫 (玄関より浸入) 不審者訓練	9:50 10:00	室内から 4階保育室へ 保育室	・火災時との身の守り方の違いを理解する ・荒川氾濫時の避難方法を知る ・不審者侵入時の対応方法を知る	・素早く集まり、丸くなつて身を守る ・人數確認後、速やかに4階に移動する ・玄関から不審者が侵入し、各階で移動した と想定して子ども達の身の安全を守る	栄養士～調理室へ向け、消火器にて模擬消火 保育士～保育室にて壁を火元と想定し、消火器にて模擬消火
6	地震(関東全域) →火災(調理室) ・通報訓練	9:50	室内から 一時避難場所へ	・地震・火事それぞれの避難方法の 違いを身に付ける ・避難時の約束事を思い出しながら 避難する	・それぞれの身の守り方の違いを伝える ・人數確認後、おしゃべりせず速やかに 移動する	栄養士～調理室へ向け、消火器にて模擬消火 保育士～保育室にて壁を火元と想定し、消火器にて模擬消火
7	地震(関東全域) (火災(調理室))	8:00	プール遊び中	・プール遊び中でも慌てず機敏に行動する ・5階園庭での安全な避難方法を知る ・合同保育時であつても慌てず機敏に 行動する	・プール遊び中(無防備な体勢)の地震発生 を想定し、けがをしないよう安全な場所に 避難する	栄養士～調理室へ向け、消火器にて模擬消火 保育士～保育室にて壁を火元と想定し、消火器にて模擬消火
8	大地震 (関東・東北) (引渡し)	14:50	室内から 5階園庭	・午睡から目覚め、保育士の指示を聞いて 素早く行動する ・大地震の怖さを知り、地震から 身を守る方法を身につける	・震起きの点、普段以上に子ども達の動きに 注意する ・屋外へ避難するのはかえつて危険だと 思われる点、4階保育室へと避難誘導する	栄養士～調理室へ向け、消火器にて模擬消火 保育士～保育室にて壁を火元と想定し、消火器にて模擬消火
9	地震(関東全域)	10:40	戸外遊び中	・戸外遊び中の避難方法を知る	・地震発生時の様々な予測を立てた上で、 最も安全と思われる場所へ誘導する → 乳幼児で時間をすらして土園庭から避難	全員～水消防器にて土園庭にて消火訓練(保育見学)
10	水害 (洪水)	16:00	室内から 4階保育室へ	・戸外から園へ ・水害時の避難の仕方(避難経路)を知る ・水害の恐ろしさを知り、安全な場所に 避難する	・暴雨による床に浸水を想定し、4階に 避難する ・怒ガラスが割れる可能性もあるので離れる	栄養士～調理室へ向け、消火器にて模擬消火 保育士～保育室にて壁を火元と想定し、消火器にて模擬消火
11	火災(調理室) ・通報訓練 不審者訓練 (園外にて遭遇)	0・1・2-11:15 3・4・5-11:35	室内から 避難口へ 戸外から 園へ	・給食前の備ただしの中でも、保育者の 指示に従い機敏に行動する ・戸外活動(園外)にて不審者に 遭遇した際の対応方法を知る	・おむつ替えやトイレなどであつても、 素早く避難出来るよう誘導する ・不審者から子ども達の身の安全を素早く 守り、状況を見て速やかに帰園する ・食事を中断し、避難する	栄養士～調理室へ向け、消火器にて模擬消火 保育士～保育室にて壁を火元と想定し、消火器にて模擬消火
12	地震(関東全域)	12:00 18:15	給食中 遅番	・給食中の避難方法を知る ・合同保育時であつても慌てず 機敏に行動する	・少ない職員数、また、異年齢児が混在する 中での避難方法を確立する	栄養士～調理室へ向け、消火器にて模擬消火 保育士～保育室にて壁を火元と想定し、消火器にて模擬消火
1	火災 (調理室)	9:50	室内から 一時避難場所へ	・言葉掛けだけで緊急の事態がわたり、 保育者の指示に従い、避難する	・火災時の避難方法や約束事を思い出し、 速やかに保育者の下へ集まり避難する	保育士～保育室にて壁を火元と想定し、消火器にて模擬消火
2	大地震 関東・東北 (引渡し)	おやつ中 15:30	室内から 避難口へ	・おやつ中の避難方法を知る	・おやつを中断し、避難する	保育士～保育室にて壁を火元と想定し、消火器にて模擬消火
3	地震→ 火災(調理室)	9:45	室内から 一時避難場所へ	・担任ではない保育士の元で素早く 鳥を守り避難する	・なるべく新年慶祝での体制に近付け、 その中でも素早く避難する	栄養士～調理室へ向け、消火器にて模擬消火 保育士～保育室にて壁を火元と想定し、消火器にて模擬消火